

1. 20代の若者に国内旅行は人気——約8割の若者が毎年1回は国内旅行を経験

国内旅行は伸び悩んでいるとよくいわれますが、20代若者は国内旅行によく出かけています。最近3年間で平均年1回以上観光目的の国内旅行に出かけている人は、女性は80.0%、男性は77.8%、全体で78.9%となりました。また半数以上は、年2回以上国内旅行に出かけており、若者にとって国内旅行は人気のようです。

なお、過去3年間海外旅行で2~3回以上出かけた人は28%となっています(2006年の同地区の出国率は男性18.7%、女性32.4%、全体で25.4%、全国13.7%)。

20代若者にとって意外なほど国内旅行が人気である理由は、

- ① 少ない金額、少ない日数で出かけることができる、
- ② 自然、歴史、都市、テーマパーク、異文化とビーチリゾート、温泉、グルメ・・・etcと観光素材が豊富である、
- ③ 安全、安心、言葉が通じる、

などの要素があると思われます。消費が停滞しているといわれる20代若者にとって、気楽に出かけることができる国内旅行は最大のレジャーといっても過言ではないようです。

図1 最近3年間の国内観光旅行の回数

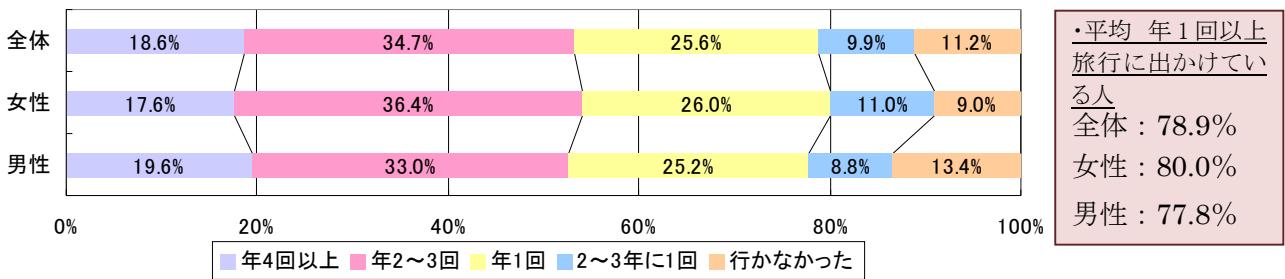
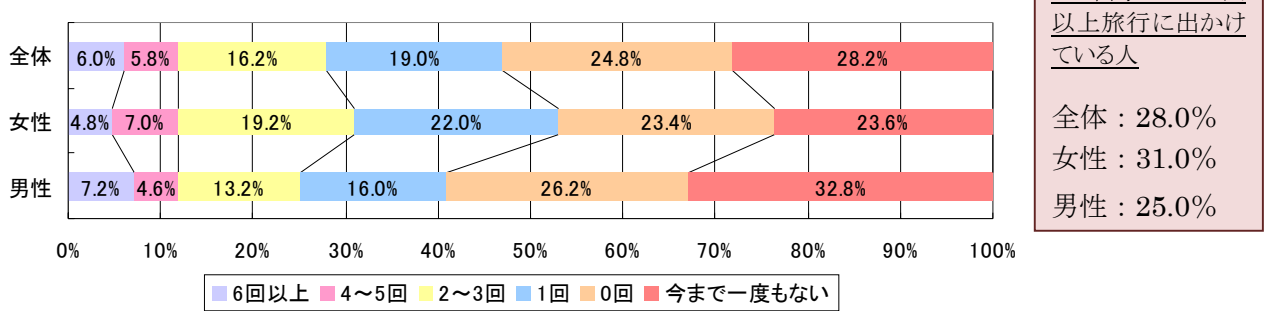


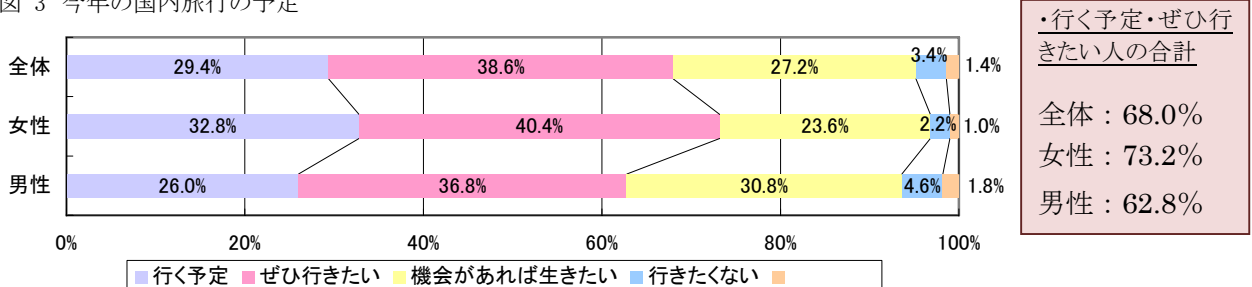
図2 最近3年間の海外観光旅行の回数



●今年、積極的に国内旅行に行きたい人は約70%

今年の予定を聞いてみたところ、「行く予定があり、具体的に計画している29.4%」と「具体的な計画はないが、ぜひ行きたい38.6%」の積極派は合計で68.0%となりました。女性の積極派は73.2%、男性の積極派は62.8%となっており、ここでも女性の国内旅行をしたいという意欲の高さが分かります。

図3 今年の国内旅行の予定



2. 気兼ねをしない「ふたり旅」が一番！！仲の良いグループ旅行はテーマパークで楽しんでおいしい食事を——同行者で変わる旅の楽しみ方

●誰と旅行に行きたいか

最も一緒に行きたい人は、「夫婦・恋人 45.1%」、「友人と 2～3 人で 20.8%」、「家族と 18%」、「ひとりで 13.6%」の順になっています。家族構成別にみた場合、子供のいる既婚者は圧倒的に子供連れ家族旅行となりますが、それ以外では夫婦や気兼ねをしないですむ気の合った友人・同居者の希望が多くなっています。友人とのグループ旅行は女性に多く、一方、一人旅を好むのは男性に多くみられます。

参考：団塊世代の旅行動向(2007年3月実施)の同行者

男性 ①夫婦2人で(72.5%)、②自分一人で(10.7%)、③友人・知人と(7.4%)
 女性 ①夫婦2人で(48.7%)、②友人・知人(22.5%)、③娘と2人で(7.6%)

女性は 20 代も友人との旅行を好む兆しが見られるものの、グループ旅行が比較的多い団塊世代と違い、夫婦や付き合っている友人など気兼ねをしない二人旅が一番人気のようです。

図 4-1 家族構成別に見た一番行きたい同行者(男性)

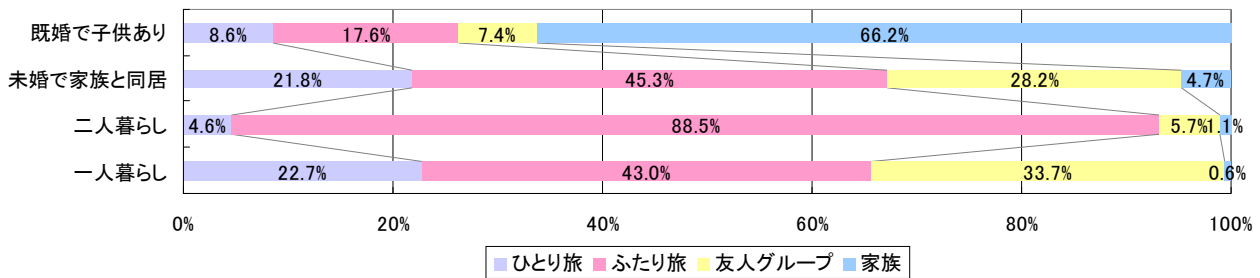
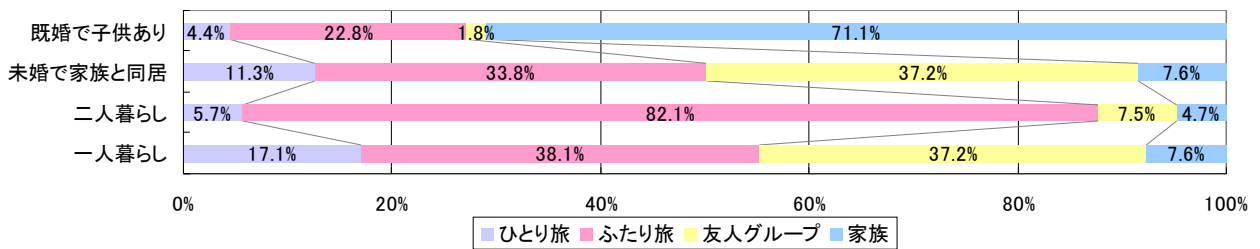


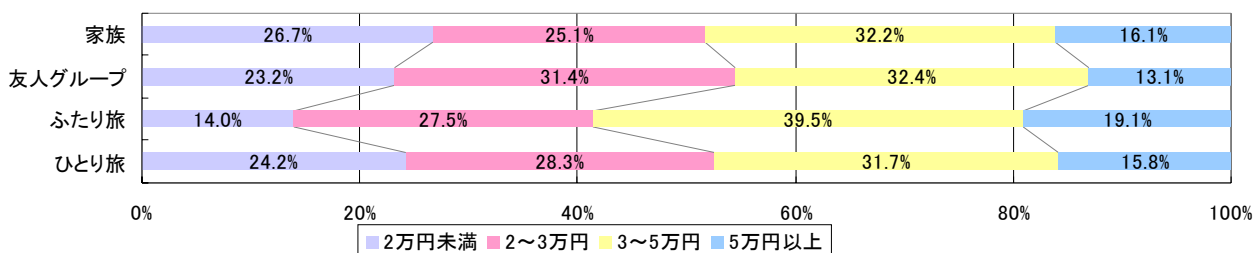
図 4-2 家族構成別に見た一番行きたい同行者(女性)



●一番お金を使うのも気兼ねをしないふたり旅

旅行にお金をかけるのも「ふたり旅」のようです。20代は友人グループよりも夫婦や恋人に一番お金をかけるようです。家族旅行は総費用を支払うことになるので、やや節約気味のようです。ひとり旅も自分のために支払うのでやや高めとなっています。

図 5 同行者別旅行費用



参加形態別 一人当たりの平均旅行費用

旅行形態	平均旅行費用		旅行形態	平均旅行費用
ふたり旅	42,880 円		家族	37,935 円
ひとり旅	38,629 円		友人グループ	35,780 円

●おいしいものを食べ温泉でゆったり「ふたり旅」、テーマパークへは賑やかに「グループ旅行」、趣味を求めて「男の一人旅」

最も一緒に行きたい人と、どのような旅行を楽しみたいか聞いてみました。誰と出かける場合でも「自然や風景を楽しむ」、「地元の美味しいものを食べる」は上位に位置します。財団法人日本交通公社の旅行者動向調査でも、「行ってみたい旅行」のベスト3は長年にわたり「温泉」「自然」「グルメ」となっています。

20代若者層にとって「温泉でのんびり」は、ふたり旅と家族に圧倒的な支持を受けています。テーマパークはグループで賑やかに楽しむもの。スポーツも大人数のグループ旅行が楽しいようです。一方、ひとり旅で特徴的なのは「趣味を楽しむ」に比率が高いこと。「ドライブ・鉄道」の男性ひとり旅、「エステ」を楽しむ女性のひとり旅も他にはない比率の高さが見受けられます。

20代の若者は、同行者によって、旅行の楽しみ方をうまく使い分けているようです。

表 1 同行者別旅行の楽しみ方支持率(%)

	ひとり旅	ふたり旅	家族	友人グループ	
				2~3人	4人以上
自然や風景を楽しむ	60.2	45.7	46.3	33.1	18.0
史跡や名所を見て回る	49.8	33.2	33.7	35.4	22.9
美味しいものを食べる	43.8	69.5	71.9	69.4	65.1
温泉でのんびり	25.5	43.3	47.2	29.3	25.3
親睦を深める	0.8	10.5	12.5	21.3	32.5
テーマパークで楽しむ	2.0	22.5	23.3	29.0	39.8
ドライブや鉄道を楽しむ	12.0	9.1	7.2	9.1	16.9
スポーツなどのアクティビティを楽しむ	9.6	4.7	4.2	10.0	25.3
趣味を楽しむ	16.3	3.0	1.8	4.1	3.6

3. まとまったお金があれば！！ --- 一番したいのは海外旅行、貯金に回して日々の生活を守る堅実な生活も

国内旅行は、その金額や身近さから20代若者に人気ようですが、海外旅行に出かける20代の若者たちは1996年を境にその数が減少し、出国率も低下しています。正規雇用者より年収が低い非正規雇用者が1990年代後半から増加したと関係が深いと考えられます。今回の調査でも自由になるお金を何に使っているかと聞いたところ、衣料品20.8%、交際費17.8%と、日常生活の延長線上での消費が浮き彫りになりました。ひと月に自由に使えるお小遣いが3万円未満の女性は47.4%、男性は37.4%となっています。

しかし、旅行に対する意欲が減退しているわけではないようです。まとまったお金(30万円程度)があれば何に最も使いたいかと聞いたところ①海外旅行20.4%、②貯金17.3%、③国内旅行12.5%の順となりました。海外旅行への意欲そのものは旺盛のようです。

表 2 20 代の出国者数と出国率（出典：法務省「出入国管理統計、総務省統計局「10 月 1 日現在推計統計」」

		1996 年	2000 年	2006 年
男性	出国者数	173 万人	153 万人	115 万人
	出国率	17.8%	16.2%	14.7%
女性	出国者数	290 万人	265 万人	183 万人
	出国率	30.9%	29.3%	24.3%

4. 旅行の阻害要因は①.お金がない、②休みが取れない、③一緒に行きたい人とのスケジュールが合わない

旅行をためらう理由を国内旅行、海外旅行それぞれに 3 つあげてもらいました。共通している項目は、①お金がない等金銭的理由、②休みが取れない、③一緒に旅行したい人とのスケジュールが合わないの 3 つです。有給休暇が取りにくい、休暇を取ると年収が減るなど旅行に出かけるために休みが取りにくい状況が増えてきているようです。また、この層は状況に応じて同行者を選ぶ傾向が強く、その同行者とのスケジュールが合わなくて旅行に出かけないということがあるようです。

海外旅行の阻害要因としてはこのほかに、日本人にありがちな「言葉が通じない」のほか「旅先でのトラブルが心配」、「治安や感染症が不安」、「食べ物や衛生面が不安」があげられ、国内旅行では現代の若者気質を表すような「家でゆっくりするほうが好き」、「旅行よりもほかに楽しいことがある」が挙げられています。

今や日常生活品となっている携帯電話やパソコンの費用をはじめ消費アイテムが増えており、収入が伸びない中で、相対的に「海外旅行」のプライオリティが下がってきていることが考えられます。国の政策として掲げた 2010 年海外旅行者数 2000 万人達成に向けては、「海外パッケージツアー」の安全性や利便性、「旅行」の楽しさ、有益さをもっと訴えていく必要があります。

表 3 旅行をためらう理由(3 項目選択)

(国内旅行)

休みが取れない	39.4%
旅行はしたいがお金がない	34.8%
旅行よりもほかに使いたいものがある	38.2%
無駄な支出は避けたい	17.0%
同行者とのスケジュールが合わない	19.5%
家でゆっくりとするほうがいい	12.9%
ほかに楽しいことがある	10.8%

(海外旅行)

休みが取れない	39.2%
旅行はしたいがお金がない	35.3%
旅行よりもほかに使いたいものがある	26.4%
無駄な支出は避けたい	10.3%
同行者とのスケジュールが合わない	14.9%
言葉が通じないのが不安	25.8%
旅先でのトラブルが不安	18.7%
治安や感染症が不安	17.3%
食べ物や衛生面が不安	13.2%

< 調査方法 >

調査実施期間： 2008 年 3 月 1 日(土)～3 月 3 日(月)

調査対象： 首都圏（東京、神奈川、埼玉、千葉）、愛知県、京阪神（京都、大阪、兵庫）在住の 20 歳代の男女

サンプル数： 1,000 名（男女それぞれ 500 名ずつ）

調査方法： オンライン WEB 調査

調査内容： 消費および旅行に関する調査